

西播柔道連盟



初版:平成17年10月21日

改訂:平成21年04月01日



I. 根源



伊勢 茂一（八段）

大正5年～昭和37年 姫路生まれ 国士舘大卒

伊勢 茂一は、戦後 姫路市飾磨区清水にて、整骨業を営むかたわら、伊勢道場（昭和25年～昭和55年）を開いて門弟を育てた。

出身者に、県警師範 石川英明八段、国体選手としては故北野博重（飾磨工高）などがある。

<出場した主な全日本大会>

①戦後第1回全日本東西対抗出場

第3回大会にも出場

②昭和27年 全日本柔道選手権大会

昭和27年5月18日、両国メモリアルホール

一回戦：伊勢茂一（当時六段） ○ — 山中忠雄（四段）

二回戦： " ○ — 夏井昇吉（五段）

三回戦： " — ○ 醍醐敏郎（六段）

③昭和30年 日本柔道整復公認30周年記念式典と第1回柔道大会

昭和30年2月20日、午前10時より記念式典

正午より柔道大会（高段者試合青壮年期の部）

壮年前期の伊勢（当時七段）は、国士舘大学時代より数多くの柔道大会に出場の有名選手であった。当時まで現役で活躍していたので、決勝戦まで順調に勝ち進み、決勝戦で富山県代表の、高嶋道夫六段と対戦、11回延長の末、優勢負けに終わった。

④その他、昭和25年第5回国民体育大会には近畿地区代表として出場

昭和27年第7回国民体育大会にも県代表選手として出場、活躍した

昭和37年伊勢没後、弟子の中村秀臣六段が、約20年間伊勢道場を守り、閉館した。その後、中村が近くに場所を移し、中村道場を開設し、伊勢の遺志を引き継いでいる。

伊勢道場

（昭和29年10月撮影）



II. 西播柔道連盟

1) 西播柔道振興

西播の柔道振興の始まりは明治時代の柔道家「田辺又右衛門」の指導である。田辺は自ら遷武館道場を開設し姫路警察、姫路中学校の道場指導から、姫路市を中心に西播各地を指導し、充実していった。大正11年に兵庫県柔道有段者会が設立されるまで数多くの道場が開設された。敗戦の結果GHQの指令により、武道は禁止されたが、柔道は世界の人々からスポーツとして認識されていたため、講道館柔道は禁止令が解かれたのである。これにより兵庫県柔道有段者会は活動を続けていった。

やがて、従来の兵庫県柔道有段者会を発展的に解消する方向で、県下各地区の代表者の度重なる会議が開かれるのと並行して、県下各地区で組織化が図られ西播地区の柔道愛好者は171名となっていった。

昭和22年6月15日神戸市大倉山の医師会館においての兵庫県柔道協会総会には西播から61名出席した。その後西播支部の組織を確立した。東播、西播対抗柔道大会、姫路護国神社境内での京都府との対県試合などでは西播支部から伊勢茂一などを送り活動が開始された。

2) 姫路柔道の歩み(戦後)

兵庫県柔道協会西播支部道場の建設が護国神社内に進められ、昭和26年3月落成式を迎え、西播の中心道場となり昇段試験が実施された。当時、西播代表として伊勢茂一が全日本選手権、東西対抗、国体等に出場し優秀な戦歴を残した。

西播支部道場で育った「西播柔道の新星」と言えば藤田家将八段（前兵庫県柔道連盟会長）である。



昭和30年代になると新日本製鉄広畑柔道部の活躍が目立ってきた。新日本製鉄広畑柔道部からは全日本選手権、国体等で活躍し、広畑柔道部で練習に励んだ姫路市在住者が木下栄三八段（現西播柔道連盟会長）である。



また昭和35年の全国青年柔道大会に西播支部道場代表として常峰利行七段（前西播柔道連盟副会長） ※下段右端などが出場し全国3位の成績を残した。

伊勢道場で柔道を学んだ石川英明、磯田實（県警）は全国大会等に活躍した。



3) 近隣道場の設立

①御津柔道少年団

昭和46年御津町柔道協会は全日本柔道少年団に入団し、御津分団が発足した。その後青少年健全育成を願い柔道指導に専念した。第1回県西部少年柔道大会が昭和50年3月に開催される運びまでに発展充実し、平成3年3月の第16回大会では700名を超える盛挙となっていたが、各地区で組織的な充実した大会が開催されるようになったため、初期の目的が達成され第16回で終了した。岸野弘、丸尾三郎、大浦昌郎、澤村幸雄等の柔道発展の熱意の現われであった。

②中村道場 伊勢道場を引継ぎ弟子の中村秀臣により昭和54年4月設立
設立者：中村秀臣 指導者：大矢八平、山本昭 姫路市飾磨区清水

③愛孝館 伊勢道場の門下生、磯田實により平成元年1月設立
設立者：磯田實 指導者：養父洋介、毛利一三等 姫路市白浜町甲



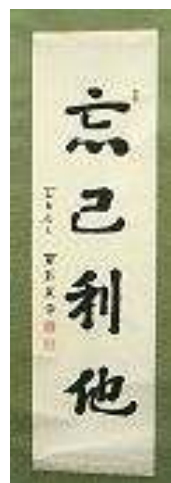
平成8年西播柔道連盟役員（左より大谷、杉本、松本、木下、常峰、岸野、津川、井上、新町）

Ⅲ. 恵柔館の設立

1) 設立者 坂井路雄 五段

姫路市飾磨区出身。青年期に学業の傍ら中村道場にて柔道を始める。やがて太子柔道少年団（昭和53年3月設立）の指導者となり、西播柔道連盟理事に就く。かねてより中村道場門下生との交流も深く、近隣の他道場などへ稽古に出向くことも多かった。

太子柔道少年団で約10年の指導者経験を経て、平成12年10月、年齢に制限を設けない道場をつくることを決意し同少年団指導員であった三木義則とともに、太子町出身である故山田恵諦（元天台宗座主）の名前にあやかり「恵柔館」を設立。



恵柔館設立 平成12年10月

地域のニュース

年齢や経験に関係なく、「せめて初段を取るべく、長く柔道に親しむことまで頑張ってほしい」とをモットーにした「恵年館に制限を加えない道柔館坂井道場」（坂井路雄館長）の道場開きが17日、太子町立岡の町立・元天台宗座主の名前

柔道を長く続けて

年齢制限ない道場開設

太子町

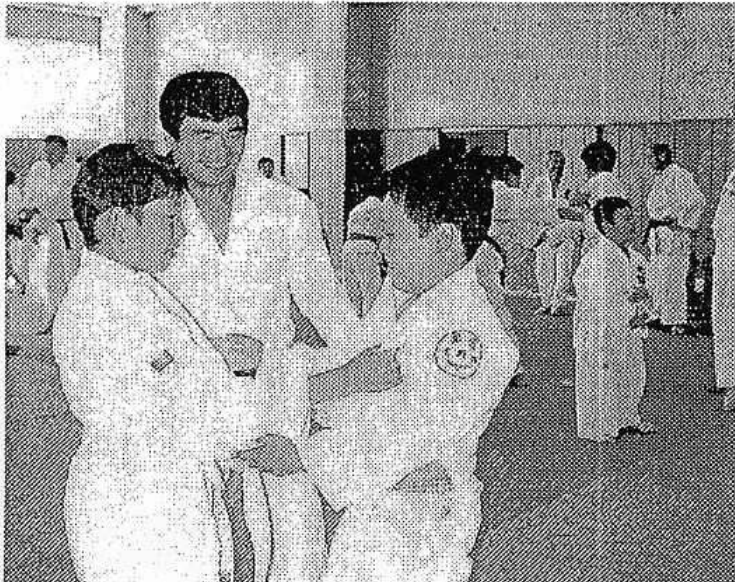
太子西中学校柔道場であつた。をとった道場を創設、今春から小学5年と中

坂井館長は約10年間、学1年の計6人で練習同町内のスポーツ少年団を始めた。

で小学生に柔道を教えてきたが、中学生になると3道場のメンバー約40人も参加。道場名が書かれ

た看板が披露された後、合同練習会が行われた。同道場は、水、土曜日の週2回、同中学校柔道場で開かれる。月会費1500円。問い合わせは、坂井館長（090・3287・0853）。

【田村晃一】



合同練習会で子どもたちを指導する坂井館長（左から2人目）
|| 太子西中学校柔道場で



平成13年12月5日 近隣道場との合同練習



恵柔館館員募集ポスター

賞状

団体戦の部

三位 恵柔館

第31回西播柔道大会において
頭書の成績を収められた
のでその栄誉を讃え今後
一層の御精進を希望します

平成十五年七月五日

西播柔道連盟

大会会長 木下栄二



賞状

一般裏門の部第三位

赤穂義士祭奉賛柔道
恵柔館

大会において優秀なる成績を
得られたのでその栄誉を讃え
これを賞します

平成十五年十二月十四日

赤穂義士祭奉賛会会長 豆田正明



この資料は「兵庫柔道の歩み／兵庫県柔道連盟」を参考に
主に恵柔館に関連する部分を抜粋して作成したものです。

